



とびっくす～in 海外～ TOPICS

3月号 2008.3.11

国際業務室

内線3702.3715

011-231-3133



「結婚おめでとう!!!」

2月14日、当事務所スタッフの徐霞さんが、めでたく結婚いたしました。「恭喜！恭喜！」(中国語で「おめでとう！」の意味)。そこで今回のテーマは、中国東北地方の結婚式です。

結婚式の朝は早い。新婦は朝4時ごろから準備を始めます。7時半ごろ、新郎は高級外車を連ねて新婦を迎えにいきます。新婦宅の入り口では、新婦の両親が新郎を出迎えます。新郎が新婦の部屋までたどり着くと、部屋の扉はかたく閉ざされています。部屋の中には新婦の友人が集まっていて、新郎にきびしい質問をあびせかけます。「結婚後の家事は誰がしますか？」「給料は全部新婦に渡しますか？」などなど。新郎が新婦の満足する答えをだすまで扉は開きません。扉が開くと、新婦がベッドに座って待っています。新郎は新婦のとなりに座り、一緒に「卵」と「麵」を食べます。これには「円満」に「未永く」という意味がこめられています。食べ終わると、新郎は新婦を抱きかかえて車まで運びます。「家の中では新婦が床に足をつけてはいけない」というしきたりがあるのです。披露宴は、9時38分、9時58分など「8」のつく時間から始まります(中国でも「8」は縁起のいい数字です)。披露宴では、二人の紹介、指輪交換、キャンドルサービスなど、日本の披露宴と同じようなイベントが繰り返され、だいたい正午までに披露宴はお開きになります。

朝早くから随分忙しいと思われるでしょうが、東北地方では一般的には午後に結婚式を行いません。なぜでしょう？なぜなら、午後に結婚式を挙げるのは、再婚のときだからなのです。

瀋陽事務所：正司 毅

殺虫剤ギョーザと中国の基本的人権について

中国のNHK放送でも殺虫剤入りギョーザについて、連日のように放送されています。国際問題となっているのはご周知の通りです。皆様お体に変わりはないでしょうか？私は中国に来てからアレルギーが出ました。驚くべきことに日本ではあれだけ放送されているギョーザ問題も、中国ではほとんど放送されていません。出所は忘れましたが、この問題についてあるネット広報が、中毒を起こしたことに対し「日本人は虚弱体質だ」と伝えました。ではメタミドホスを中国人は飲めるのでしょうか？この話題を何人かの中国人にしましたが、さらに驚くことに同様の回答が返ってきました。ギョーザ問題も然り、歩行者よりも車両を優先する社会、炭鉱事故で数十人が死亡かつ数十人が生き埋めになっているのに3行の紙面でしか伝えないマスコミ、言い出せばきりがありませんが、全てはこの国に人命を尊重するという基本的人権に対する考えが極めて希薄だということです。人命よりも面子やシステムの効率性を重要視します。インド等の途上国においても同様のことが言えますが、日本と特に密接な関係を築いていかなければならない隣国がどういふ国かを認識しておくのは非常に重要なことだと個人的には思われます。

北京事務所：坂口 秀之

正月の花火

「バババババババ～ン！ヒューン、ドンドン！！」。上海の正月は、花火と爆竹のオンパレードでした。とにかく朝も早く(朝4時前後)から深夜(夜1時前後)までいたるところから音が聞こえてきました。うるさいと言えうるさいのですが、慣れとは怖いもので、数日経つと「また鳴ってるな。」程度で過ごすくらいまでになりました。また、子供の頃から火薬の匂いが好きだったせいか、外にでると普段の空気よりある意味心地よく感じました。

帯広の十勝毎日新聞社や札幌の北海道新聞社の花火大会等に何度も行きましたが、それと同一またはそれ以上の迫力がある花火が上がる時間帯がありました。それは、旧暦の1月5日(今年は2月11日)に日付が変わる前後から打ちあがった花火です(20分間程度)。とにかく我が家(11階)からどこを見ても花火が上がっている状態です。面白いぐらい「花火、花火、花火」なのです。何で迫力があるかという点と眼前で上がるのです。花火の火の粉がシャワーのようにマンションに降り注いでおり、日本なら花火打ち上げの許可が下りないでしょう。(現役役人が言うので間違いのないと思います。) その日は、財の神様が降りてくるとのこと。「我が家にお越し下さい。」との合図で花火や爆竹をするそうです。皆さんも是非体験してみてください。

北陸銀行 上海事務所：平手 孝弘